

治療用乳酸菌の研究施設を見学

ミャンマーの副大臣ら



C型肝炎の治療に効果がある乳酸菌などの研究をしている伊賀市富永の健康食品製造販売会社「ニチニチ製薬」に19日、ミャンマーからパイン・ソウ保健省副大臣ら同国の医学関係者が訪れ、培養室など同社の研究施設を見学した。

写真。同社が共同研究している岡山大学の橋渡しによる来訪で、一行は、見学などで得たことを帰国後に生かしたいという。

同社は、2年前から岡山大と共同で、C型肝炎の治療に役立つ乳酸菌の研究を進める。乳酸菌を与えたマウスが、ウイルスの増殖を抑えるインターフェロンを多く出すことなどがわかっており、現在臨床試験などを行っている。

岡山大はミャンマーと大学間協定を結んで交流しており、今回の来日はその一環。ソウ保健省副大臣をはじめ中央ミャンマー医学研究所長ら4人が17～26日に、東京、伊賀、岡山、長崎などを訪ね、共同研究の打ち合わせをしたり、サイクロン被害で支援してもらったお礼を述べたりする。

一行は同社で、嶋田貴志・同社中央研究所部長らの説明を聞きながら研究室や培養室を見学。ソウ副大臣は「設備のすばらしい会社で、見学できてよかった」と話し、嶋田部長は「これからもお互いに研究を進めていきたいと思っています」と答えた。